

八戸工業大学ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、 アドミッション・ポリシー（令和4年度以降入学者）

改正 令和 4年12月22日 教授会（カリキュラム・ポリシー改正）

■八戸工業大学ディプロマ・ポリシー

八戸工業大学は、「良き技術は、良き人格から生まれる」という教育理念を掲げています。これは、「良き職業人となるためには、高度な専門知識とともに豊かな人間性と総合的な判断力をもつ」ことが必要であることを意味しています。本学は、この理念を踏まえた教育目標に基づく所定の教育課程を修め、以下の資質・能力が身についた学生に学士の学位を授与します。

1. 豊かな人間性と総合的な判断力
2. 社会の変化に対応できる柔軟な思考力
3. 専門分野の基礎原理の理解と高度応用展開力
4. 地域社会への関心をもちグローバルな視野で物事を考える姿勢

■工学部ディプロマ・ポリシー

工学部では、所定の教育課程を修め、以下の資質・能力を身につけたと認められる学生に対し、「学士（工学）」の学位を授与します。

1. 豊かな人間性と総合的な判断力を基盤とする工学の素養
2. 社会の変化に対応できる柔軟な思考力
3. 工学基礎原理の理解とそれらの高度応用展開力
4. 地域社会への関心をもつとともにグローバルな視野で物事を考えることができる力

■工学科ディプロマ・ポリシー

工学科では、機械工学、電気電子通信工学、システム情報工学、生命環境科学、建築・土木工学のいずれかの分野において所定の教育課程を修め、以下の資質・能力を身につけたと認められる学生に対し、「学士（工学）」の学位を授与します。

- (A) 社会人としての良識と倫理観、地域社会に対する理解ならびにグローバルな視野
- (B) 専門分野の基盤となる基礎知識とこれらを活用して社会の発展に貢献できる力
- (C) コミュニケーション能力と国際人としての姿勢
- (D) 基本的な専門知識と応用・展開力の素養
- (E) 実社会において実務に対処しうる課題解決能力・チームワーク力、自ら積極的・継続的に学んで行動する力
- (F) 北東地域における科学技術の動向への関心

■感性デザイン学部ディプロマ・ポリシー

感性デザイン学部では、所定の教育課程を修め、以下の資質・能力を身につけたと認められる学生に対し、「学士（感性デザイン）」の学位を授与します。

1. 豊かな人間性と総合的な判断力を基盤とするデザイン学の素養
2. 社会の変化に対応できる柔軟な思考力
3. デザイン学の諸原理の理解とこれらの応用展開力
4. 社会的問題を自ら発見し、解決に貢献する力
5. 地域社会への関心を有するとともに、多文化・異文化を理解し、幸福な社会づくりに貢献する力

■感性デザイン学科ディプロマ・ポリシー

感性デザイン学科では、所定の教育課程を修め、以下の資質・能力を身につけたと認められる学生に対し「学士（感性デザイン）」の学位を授与します。

- (A) 社会人としての良識と倫理観、地域社会に対する理解ならびにグローバルな視野
- (B) 専門分野の基盤となる基礎知識とこれらを活用して社会の発展に貢献できる力
- (C) コミュニケーション能力と国際人としての姿勢
- (D) デザイン活動の基礎となる専門知識と能力
- (E) 他者ととともにデザイン活動を展開して、社会の課題解決を遂行することができる能力

■八戸工業大学カリキュラム・ポリシー

八戸工業大学は、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を備えた人材を育成するために、次のような教育課程編成・実施の方針を定めています。

1. 教育課程の骨格

カリキュラムを、高校教育から大学教育に円滑に移行させ、キャリアデザインを支援するための「キャリア教育科目」、人間環境や社会に対して多面的な視野から物事を捉え総合的な判断ができる力を養う「総合教養科目」、AI技術やデータサイエンス能力を養う「AI・データサイエンス科目」、地域社会と科学技術についての包括的な理解、ならびに工学とデザインの分野を融合した学びを誘導する「共創教育科目」、工学の学問に必要な自然科学分野の基礎を幅広く養う「工学基礎科目」（工学部のみ）、各分野における専門基礎原理、実践的な応用能力を養う「専門科目」、地域産業の特色を反映した発展的な知識・技術を養う「工学発展科目（工学部のみ）」、高度な応用・展開能力を養う「特別専攻科目」で編成します。

2. 総合的な人間力を養成する教育の実施

「キャリア教育科目」においては、高大接続・社会接続を担う教育を実施します。また「総合教養科目」においては、その分野を人間科学分野、国際コミュニケーション分野、体育科学分野および総合学際分野で構成し、学部・学科を問わないリベラルアーツを展開します。これにより、豊かな人間性を涵養し、柔軟な思考力や幅広い視野に立った理解力を養成します。「共創教育科目」および「専門科目」においても、課題解決型学習(PBL)、アクティブ・ラーニングなどの授業を展開し、豊かな人間性と総合的な判断力、主体性ならびに社会の変化に対応できる柔軟な思考力を養成します。

3. 高度な情報活用能力を育成する教育の実施

超スマート社会に対応するための情報リテラシーとAI技術・データサイエンスの基礎を学ぶ科目を全学共通として配置します。工学およびデザインの専門分野においては情報技術を高度に利活用するための力を養成します。

4. 地域社会との繋がりを重視した共創教育の実施

社会が抱える課題の解決のために、地域への理解を深めるとともに、学部・学科の専門分野の地域的・社会的な役割およびデザインの基礎について学ぶための科目を配置します。また「共創教育科目」における工学とデザインを融合した学修、さらに専門科目においても地域と連携したPBL、アクティブ・ラーニング教育を展開します。これにより、持続可能な地域社会づくりへの関心と責任をもって物事を考えることができる能力を養成します。

5. 専門分野の基礎原理を理解・修得するための教育の実施
学部・学科の専門基礎原理を学ぶ科目を学期ごとに体系的に学べるように編成します。専門基礎と演習を組み合わせた授業、専門基礎原理の繰り返し学習を取り入れた授業などを展開し、これにより専門分野の基礎原理を理解・修得させる教育を実施します。
6. 専門分野の基礎原理を実践的に応用展開できる力を養成する教育の実施
実践的な力を養うために、少人数ゼミナール、実験・演習・実習科目を重点的に配置します。自ら考えて纏めたことを発表・表現する授業や、体験・気づき・省察サイクルを取り入れた授業を展開します。また身につけた専門知識やスキルを統合し、論理的な課題解決を通じて新たな価値の創造に繋げていく能力や姿勢を育成するために、「卒業研究」を全学必修とします。また、これらの科目群によりチームワーク力やリーダーシップ力も養成します。
7. グローバルな視野で物事を考えることができる力を養成する教育の実施
学部・科を問わない「総合教養科目」を中心に、「専門科目」においてもそれぞれの分野においてグローバルな視点での授業を展開します。これにより、異文化と多様性を理解しつつ、グローバルな視野で物事を考えることができる力を養成します。

学修成果の達成度は、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力に基づいて具現化した複数の修得因子によって評価し、学生が自ら確認できるよう配慮します。

■工学部カリキュラム・ポリシー

工学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を備えた人材を育成するために、次のような教育課程編成・実施の方針を定めています。

1. 教育課程の骨格
カリキュラムを、「キャリア教育科目」、「総合教養科目」、「AI・データサイエンス科目」、「共創教育科目」、「工学基礎科目」、「専門科目」、「工学発展科目」、「特別専攻科目」で編成します。
2. 総合的な人間力を養成する教育を実施します
「キャリア教育科目」においては、高校から大学へのスムーズな移行や社会と接点のある教育を実施します。「総合教養科目」においては、専門分野を問わないリベラルアーツを展開し多面的に物事を考える素養を養います。これにより、豊かな人間性を涵養し、柔軟な思考力や幅広い視野に立った理解力を養成します。「共創教育科目」および「専門科目」においても、PBL、アクティブ・ラーニングなどの授業を展開し、豊かな人間性と総合的な判断力、主体性ならびに社会の変化に対応できる柔軟な思考力を養成します。
3. 高度な情報活用能力を育成する教育を実施します
情報リテラシーとAI技術・データサイエンスの基礎を学ぶ科目を配置します。工学の専門分野においては情報技術を高度に活用するための力を養成します。
4. 地域社会との繋がりを重視した共創教育を実施します
社会が抱える課題の解決のために、地域への理解を深めるとともに、工学における専門分野の地域的・社会的な役割およびデザインの基礎について学ぶための科目を配置します。また工学とデザインを融合した学修や地域と連携したPBL、アクティブ・ラーニング教育を展開し

ます。これにより、持続可能な地域社会づくりへの関心を深めるとともに責任をもって物事を考えることができる能力を養成します。

5. 専門分野の基礎原理を理解・修得するための教育を実施します

工学の学問に必要な「工学基礎科目」を配置し、自然科学分野の基礎を幅広く養います。また、工学部の専門基礎原理を学ぶ科目を学期ごとに体系的に学べるように編成します。専門基礎と演習を組み合わせた授業、専門基礎原理の繰り返し学習を取り入れた授業などを展開し、これにより専門分野の基礎原理を理解・修得させる教育を実施します。

6. 専門分野の基礎原理を実践的に応用展開できる力を身につけるための教育を実施します

高度な応用展開力を養うために、実践的な科目や実験・演習・実習科目を重点的に配置します。授業の中では、論理的な思考を通じて自ら考え纏めたことを発表・表現する授業を展開します。また身につけた複数の専門知識やスキルを統合し、課題の解決力と継続的に学習する力やプロジェクトマネジメント力を育成するために、「卒業研究」を必修とします。また、これらの科目群によりチームワーク力やリーダーシップ力も養成します。さらに、工学における発展的・分野横断的な学びを強化するために「工学発展科目」や「特別専攻科目」を配置します。

7. グローバルな視野で物事を考えることができる力を養成する教育を実施します

「総合教養科目」を中心に、「専門科目」においてもそれぞれの分野においてグローバルな視点での授業を展開します。これにより、異文化と多様性を理解しつつ、グローバルな視野で物事を考えることができる素養を養成します。

■工学科カリキュラム・ポリシー

工学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を備えた人材を育成するために、次のような教育課程編成・実施の方針を定めています。

1. 教育課程の骨格

カリキュラムを、「キャリア教育科目」、「総合教養科目」、「AI・データサイエンス科目」、「共創教育科目」、「工学基礎科目」、「専門科目」、「工学発展科目」、「特別専攻科目」で編成します。

2. 教育課程の編成

- (1) キャリア教育科目：高校教育から大学教育への円滑な移行と将来のキャリアプランニング、さらに倫理観・規律性、社会的責任感を涵養するための科目を配置します。
- (2) 総合教養科目：幅広い視野と教養、コミュニケーション・スキルを養うため人間科学、国際コミュニケーション、体育科学、総合学際4分野にわたる教養科目を配置します。
- (3) AI・データサイエンス科目：情報リテラシーを修得するとともに、AI技術、データサイエンスの基礎力および実践・応用力について学ぶための科目を配置します。
- (4) 共創教育科目：北東北を中心とした地域社会と科学技術についての包括的な理解、ならびに工学とデザインの分野を融合した学びを誘導する科目を配置します。
- (5) 工学基礎科目：専門科目の学習に必要な数学、自然科学、実験に係わる科目を配置します。
- (6) 専門科目：機械工学、電気電子通信工学、システム情報工学、生命環境科学、建築・土木工学のいずれかの分野について基礎的な知識と学力を修得し、それらを応用・展開できる能力を修得することを目的に基礎分野と応用分野から構成される科目を配置します。さら

に企業などにおけるインターンシップ、より総合的な学習や特定領域における研究活動を行うための卒業研究を配置します。これらの科目群を通じて総合的な判断力や継続的な学習力、チームワーク力、リーダーシップ力、社会の変化に対応できる柔軟な思考力および課題解決能力を養成します。

- (7) 工学発展科目：工学分野の発展プログラムとして、原子力工学、ロボット工学、海洋学の各分野の科目群を配置します。
- (8) 特別専攻科目：少人数による分野横断型の教育を通して高度な応用・展開能力を修得することを目的として、解析、特別専攻プロジェクト、特別専攻ゼミナールの科目群を配置します。

3. 教育課程の実施

- (1) 将来の進路や取得可能な資格の希望に応じて機械工学、電気電子通信工学、システム情報工学、生命環境科学、建築・土木工学の各コースが設けられ、2年進級時にコースを決定します。各コースには、その人材育成像に応じた履修プログラムとして修了要件を設定します。
- (2) 必修科目・選択必修科目・選択科目を適切に配置し、技術者として必ず身につけるべき共通の素養と、自らの興味・関心に基づく多様な分野の知識をバランスよく修得できるよう配慮します。
- (3) 工学基礎科目・専門科目においては、理論・知識を学ぶための講義科目と、学んだ知識の習熟および課題発見力・解決力の醸成のための演習・実験科目を連携的・系統的に配置します。
- (4) 実験・実習・演習などの科目を通じて実践的な教育（PBL）を充実させ、講義で学んだ知識を活用し、さらに理解を深めて応用力を養うとともに、新たな課題を自ら発見し解決する課題解決能力を養成します。これらの科目の修得の過程で自己管理能力、チームワーク力、リーダーシップ力が身につくよう運営します。
- (5) 工学関連分野の横断的な学習を可能とするため、他のコースの専門科目も履修できるよう配慮します。
- (6) 学生の主体的・能動的な学びを促進するため、演習・実習科目はもとより講義科目についてもアクティブ・ラーニングを積極的に導入します。
- (7) ネットワーク環境とITルームなどを充実させることで、大学での授業・教育に加えて、自宅での自律的な学習においてもICT機器の積極的な利用を促進します。また、通常の授業でも視聴覚機器を積極的に活用し、理解度の向上に努めます。

4. 学修成果の評価

授業科目については、到達目標や成績評価の基準と具体的評価方法をシラバスに明示して学生に周知し、公正で厳格な成績評価を実施します。

■感性デザイン学部カリキュラム・ポリシー

感性デザイン学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を備えた人材を育成するために、次のような教育課程編成・実施の方針を定めています。

1. 教育課程の骨格

カリキュラムを、「キャリア教育科目」、「総合教養科目」、「AI・データサイエンス科目」、「共創教育科目」、「専門科目」、「特別専攻科目」で編成します。

2. 総合的な人間力を養成する教育を実施します

「キャリア教育科目」においては、高校から大学へのスムーズな移行や社会と接点のある教育を実施します。「総合教養科目」においては、人間科学、体育科学、国際コミュニケーション

ョン、総合学際的各分野に、多面的な視野から人間と社会を捉えて総合的な判断力を養うための科目と、コミュニケーション・スキルを獲得するための科目を設置し、豊かな人間性を涵養するとともに、柔軟な思考力や幅広い視野に立った理解力を養成します。「共創教育科目」においては、専門性を異にする学生との協働を通じ、デザインプロセスの遂行能力を育成します。また、「共創教育科目」および「専門科目」において、PBL、アクティブ・ラーニングなどの授業を展開し、豊かな人間性と総合的な判断力、主体性ならびに社会の変化に対応できる柔軟な思考力を養成します。

3. 高度な情報活用能力を育成する教育を実施します

情報リテラシーとAI技術・データサイエンスの基礎を学ぶ科目を配置します。デザイン学の専門分野においては情報技術を高度に利活用するための力を養成します。

4. 地域社会との繋がりを重視した共創教育を実施します

社会が抱える課題の解決のために、デザインと工学を融合した学修や地域と連携したPBL、アクティブ・ラーニング教育を展開します。これにより、持続可能な地域社会づくりへの関心を深めるとともに責任をもって物事を考えることができる能力を養成します。

5. 専門分野の基礎原理を理解・修得するための教育を実施します

デザイン学の専門基礎原理を学ぶ科目を学期ごとに体系的に学べるように編成します。また、専門基礎理論科目と演習・実習科目を有機的に連動させ、専門基礎原理を演習・実習の場で確認し繰り返し学習できるように授業を展開します。これにより、専門分野の基礎原理を理解・修得させる教育を実施します。

6. 専門分野の基礎原理を実践的に応用展開できる力を身につけるための教育を実施します

発想力、発表力、自ら問題を解決する力などの実践的な力を養成するため、初年次から演習・実習科目を重点的に編成します。演習・実習科目は段階的に学びが深化するよう、それぞれの学年に配置します。また、コミュニケーション・スキルを養成するために、授業にはグループワークや協働活動を取り入れ、他者の考えに耳を傾け、さまざまな情報や多様な立場を受容する力、プレゼンテーションを通して自ら考え纏めたことを発表、表現する力を養う授業を展開します。さらに修得した専門知識やスキルを統合し、課題の解決と新たな価値の創造に繋げていく能力や姿勢を育成するために、「卒業研究」を必修とします。さらに、デザイン学における発展的・分野横断的な学びを強化するために「特別専攻科目」を配置します。

7. グローバルな視野で物事を考えることができる力を養成する教育を実施します

「総合教養科目」および「専門科目」における複数の科目で、グローバルな視点での授業を展開します。これにより、異文化と多様性を理解しつつ、グローバルな視野で物事を考えることができる素養を養成します。また、グローバルな視野をローカルな諸問題の解決に活かす力、多様性を踏まえてデザイン活動を進める力を養成するための授業を複数の科目で展開します。

■感性デザイン学科カリキュラム・ポリシー

感性デザイン学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を備えた人材を育成するために、次のような教育課程編成・実施の方針を定めています。

1. 教育課程の骨格

カリキュラムを、「キャリア教育科目」、「総合教養科目」、「AI・データサイエンス科目」、「共創教育科目」、「専門科目」、「特別専攻科目」で編成します。

2. 教育課程の編成

- (1) キャリア教育科目：高校教育から大学教育への円滑な移行と将来のキャリアプランニング、さらに倫理観・規律性、社会的責任感を涵養するための科目を配置します。
- (2) 総合教養科目：幅広い視野と教養、コミュニケーション・スキルを養うため人間科学、国際コミュニケーション、体育科学、総合学際4分野にわたる教養科目を配置します。
- (3) AI・データサイエンス科目：情報リテラシーを修得するとともに、AI技術、データサイエンスの基礎を学ぶための科目を配置します。
- (4) 共創教育科目：北東北を中心とした地域社会と科学技術についての包括的な理解を促進し、デザインと工学の分野を超えた学びを誘導する科目を配置します。

(5) 専門科目

専門科目を「感性デザイン基礎」と「感性デザイン応用」の科目区分に大別し、さらに前者には「デザイン基礎」、「情報技術」、後者には「デザイン応用」、「デザイン実践」、「総合演習」の各科目群を設置し、これらに各科目を分類して配置します。

これら5つの科目群の概略は以下の通りです。

1) 感性デザイン基礎

「デザイン基礎」は専門を学習する上での基盤となる科目群です。デザインや表現に関する基礎原理とデザインの思潮や歴史についての知識の獲得、デザイン活動や作品制作に関する基礎スキルの習得を目指します。

「情報技術」は現代のデザイナーに必要な情報技術を身につけるための科目群です。制作と自己表現に関わる情報機器やソフトウェアを活用するための知識とスキルを育成します。

2) 感性デザイン応用

「デザイン応用」はデザイン各分野における実践知と制作スキルの獲得を目指す専門科目群です。デザインプロセスを構築して、その中で作品などを完成させるまでの技術を磨きます。

「デザイン実践」はデザイン能力を実際に活用する力を身につけるための科目群です。学内外でのデザイン活動を企画・実践し、複数のデザインスキルを用いて完遂する能力を高めます。

「総合演習」はより実践的なデザイン能力を醸成し、応用展開するための科目群です。地域での活動実践などを通じて、それまでに身につけたデザインに関する知識やスキルを応用するとともに、総合力を高めます。

これらの科目群を通じて総合的な判断力や継続的な学習力、チームワーク力、リーダーシップ力、社会の変化に対応できる柔軟な思考力および課題解決能力を養成します。

(6) 特別専攻科目

少人数による分野横断型の教育を通して高度な応用・展開能力を修得することを目的とする科目群を配置します。

3. 教育課程の実施

- (1) 必修科目・選択必修科目・選択科目を適切に配置し、デザイナーとして必ず身につけるべき共通の素養と、自らの興味・関心に基づく多様な学びをバランスよく修得できるよう配慮します。

- (2) 実習・演習などの科目では実践的な教育（PBL）を充実させ、講義で学んだ知識を活用し、さらに理解を深めて応用力を養うとともに、課題の発見から解決までのデザインプロセスを遂行できる力を養成します。また、これらの科目の修得の過程で自己管理能力、チームワーク力、リーダーシップ力が身につくよう運営します。
- (3) 学生の主体的・能動的な学びを促進するため、演習・実習科目はもとより講義科目についてもアクティブ・ラーニングを積極的に導入します。
- (4) ネットワーク環境とITルームなどを充実させることで、大学での授業・教育においてICT機器の積極的な利用を促進します。また、通常の授業でも視聴覚機器を積極的に活用し、理解度の向上に努めます。

4. 学修成果の評価

授業科目については、到達目標や成績評価の基準と具体的評価方法をシラバスに明示して学生に周知し、公正で厳格な成績評価を実施します。

■八戸工業大学アドミッション・ポリシー

八戸工業大学は、建学の精神である「正己以格物」（己を正し以て物に格る）に基づいた自己思考能力を育むカリキュラムにより、基礎知識や専門知識だけにとどまらず、将来的に地域を牽引していくことができる総合力を備えた次世代のリーダーにふさわしい人材を養成しています。また、「良き技術は、良き人格から生まれる」という教育理念を掲げており、高度な専門知識を備え高度な応用展開力をもつとともに豊かな人間性と総合的な判断力をもつ社会の担い手の育成を目指しています。

これらを実現するため、高等学校で履修する教科・科目について基礎的な知識・技術を有しており、本学が進める教育研究活動に強い関心があり、さらに自らを向上させようとする意欲を持つ人を、多様な選抜制度により受け入れます。

本学の入学者選抜では、志願者の学力の三要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」）を把握し、各学科の教育・人材育成の目的にかなう能力・資質・意欲・適性などを判断するため、入試形態ごとに個別学力検査、大学入学共通テスト、調査書、小論文、面接などを組み合わせて志願者の能力や資質を多面的・総合的に評価します。

■工学部アドミッション・ポリシー

工学部では、豊かな人間性、総合的な判断力を基盤とする工学の素養をもった人材、社会の変化に対応できる柔軟な思考力をもった人材、工学の基礎原理を踏まえ高度な応用展開能力をもった人材、地域社会への関心、そしてグローバルな視野をもった人材の育成を目指しています。

これらを実現するため、工学部では、本学が進める工学に関する教育研究活動に強い関心があり、本学において自らを向上させようとする意欲を持ち、高等学校で履修する教科・科目について基礎的な知識・技術を有している人を、多様な選抜制度により受け入れます。

■工学科アドミッション・ポリシー

工学科は、高い倫理観、工学の専門知識と高度な応用展開力、論理的・創造的思考力やコミュニケーション能力を身につけ、異なる分野の人とも協調して課題解決にあたることのできる人材の育成を目指しています。

工学科は、機械工学、電気電子通信工学、システム情報工学、生命環境科学、建築・土木工学の5コースの教育体制を取っており、工学科の目的ならびにそれぞれのコースの学びに強い関心があり、これらの能力を身につけて地域や社会で活躍したいという目標を持って主体的に取り組む人を受け入れます。

機械工学コース

機械工学コースでは、材料力学および機械力学、熱力学および流体力学、情報および制御工学、材料および設計・加工学、自動車工学などについて学びます。

電気電子通信工学コース

電気電子通信工学コースでは、電気エネルギーシステム、電子デバイス・システム制御、および情報・通信・メディアなどについて学びます。

システム情報工学コース

システム情報工学コースでは、マルチメディア、ネットワーク、セキュリティ、システムなどの情報分野および情報関連分野などについて学びます。

生命環境科学コース

生命環境科学コースでは、生命科学、食品科学、環境科学および化学工学などについて学びます。

建築・土木工学コース

建築・土木工学コースでは、建築設計や建築計画、建築環境、インテリアデザインなどの建築学、または社会基盤施設の計画・設計・施工・維持管理などの土木工学について学びます。

■感性デザイン学部アドミッション・ポリシー

感性デザイン学部では、豊かな人間性と総合的な判断力を基盤とするデザインの素養をもった人材、社会の変化に対応できる柔軟な思考力をもった人材、デザインの諸原理を踏まえ、高度な応用展開能力をもった人材、そして公共の問題や地域社会への関心とグローバルな視野をもった人材の育成を目指しています。

これらを実現するため、感性デザイン学部では、本学が進める感性デザイン学に関する教育研究活動に強い関心があり、本学部において自らを向上させようとする意欲を持ち、高等学校で履修する教科・科目について基礎的な知識・技術を有している人を、多様な選抜制度により受け入れます。

■感性デザイン学科アドミッション・ポリシー

感性デザイン学科は、多様な人間性・文化を理解し、ローカルとグローバルの広い視点から新しい価値を生み出せるグローバル人材、建設的な人間関係を形成するコミュニケーション能力を有し、新たなものを作り上げる実現力や実行力を備えた人材、ならびに実社会において自己やコミュニティの課題を見出し、解決のために状況に応じたデザイン手法を展開できる人材の育成を目指しています。

感性デザイン学科は、本学科の目的ならびに学びに強い関心があり、これらの能力を身につけて地域や社会で活躍したいという目標を持って主体的かつ自律的に取り組む人を受け入れます。

■入試形態別アドミッション・ポリシー

●総合型選抜試験

工学部においては、

- ①「自然環境に配慮した科学技術」に関心のある人、
- ②部活動やボランティア活動など、幅広い学生生活を送りたいと望む人、
- ③個性が輝き、人と異なる発想力を持っている人、
- ④ふるさとを愛し、地域の発展に貢献したいと考えている人、
- ⑤本学の「工学部」で学びたいという強い意志を持っている人

を対象とします。

感性デザイン学部においては、

- ①公共的問題や地域社会への関心を持ち、デザイン活動を楽しめる人、
- ②求められているものが何かを理解できる感性豊かな人、
- ③これまでの常識にとらわれない発想力のある人、
- ④議論に参加し、議論を活性化できるコミュニケーション能力のある人、
- ⑤本学の「感性デザイン学部」で学びたいという強い意志を持っている人

を対象とします。

両学部とも、面接・調査書・本人が記載するエントリーシート、授業体験のなかで作成する小論文(工学部)、デッサンまたはマインドマップの作成(感性デザイン学部)により、本学や志望学部の受け入れ方針、求める人材像との整合性を総合的かつ多面的に評価・判定します。

●学校推薦型選抜試験（指定校制）

本学での教育を通じてより深い専門的知識と技術を修得したいという目標を持ち、人間性豊かな人を対象とします。

所定の成績を修め高等学校長から推薦され本学を専願する志願者について行なう面接および口頭試問、調査書・高等学校長からの推薦書・本人が記載する志望理由書により、本学や志望学部の受け入れ方針、求める人材像との整合性を総合的かつ多面的に評価・判定します。

●学校推薦型選抜試験（公募制）

本学での教育を通じて得られるものの中に目標を見出すことができ、志望学科についての理解と目的意識を持っている人を対象とします。

所定の成績を修め高等学校長から推薦された志願者について行なう面接および口頭試問、調査書・高等学校長からの推薦書・本人が記載する志望理由書により、本学や志望学部の受け入れ方針、求める人材像との整合性を総合的かつ多面的に評価・判定します。他大学との併願が可能な学校推薦型選抜試験です。

●一般選抜試験

工学部においては、本学の教育を通じて工学の基礎原理を踏まえた応用展開能力の修得を目標とする人を対象とします。選抜試験では、「数学」と「理科」の2教科、「国語」または「英語」のいずれか1教科選択、計3教科の得点で知識・技能、特に工学を学ぶための基礎学力を、調査書記載の総合的な探究の時間などにおける学習の成果、学内での活動、学外での活動で主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を、「数学」の試験における記述式問題の解答で論理的な思考力・判断力・表現力等を評価します。

感性デザイン学部においては、本学での教育を通じてデザイン学の基礎を踏まえた応用展開能力の修得を目標とする人を対象とします。選抜試験では、「国語」、「数学」、「英語」の中から2

教科と「小論文」または「鉛筆デッサン」のいずれか1教科選択、計3教科の得点で知識・技能、特にデザイン学を学ぶための基礎学力を、調査書記載の総合的な探究の時間などにおける学習の成果、学内での活動、学外での活動で主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を、「国語」または「数学」の試験における記述式問題の解答で論理的な思考力・判断力・表現力等を評価します。

●大学入学共通テスト利用選抜試験

工学部においては、社会に対して広い視野を持ち、本学での教育を通じて工学の基礎原理を踏まえた応用展開能力の修得を目標とする人を対象とします。選抜試験では、「数学」1教科1科目を含む大学入学共通テスト3教科3科目の得点で工学を学ぶための基礎学力および思考力、判断力、表現力等を、調査書記載の総合的な探究の時間などにおける学習の成果、学内での活動、学外での活動で主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を評価します。

感性デザイン学部においては、本学での教育を通じてデザイン学の基礎を踏まえた応用展開能力の修得を目標とする人を対象とします。選抜試験では、「国語」、「数学」、「外国語」の中の2教科2科目を含む大学入学共通テスト3教科3科目の得点でデザイン学を学ぶための基礎学力および思考力、判断力、表現力等を、調査書記載の総合的な探究の時間などにおける学習の成果、学内での活動、学外での活動で主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を評価します。

●社会人特別選抜試験

入学年時満23歳以上で、1年以上の就労経験が有り、本学での教育を通じてより深い専門的知識と技術を修得したいという目標を持ち、人間性豊かな人を対象とします。

工学部においては、

- ①「自然環境に配慮した科学技術」に関心のある人、
- ②部活動やボランティア活動など、幅広い学生生活を送りたいと望む人、
- ③個性が輝き、人と異なる発想力を持っている人、
- ④ふるさとを愛し、地域の発展に貢献したいと考えている人、
- ⑤本学の「工学部」で学びたいという強い意志を持っている人

を対象とします。

感性デザイン学部においては、

- ①公共的問題や地域社会への関心を持ち、デザイン活動を楽しめる人、
- ②求められているものが何かを理解できる感性豊かな人、
- ③これまでの常識にとらわれない発想力のある人、
- ④議論に参加し、議論を活性化できるコミュニケーション能力のある人、
- ⑤本学の「感性デザイン学部」で学びたいという強い意志を持っている人

を対象とします。

両学部とも、面接・調査書（最終学校の成績証明書）・本人が記載するエントリーシート、授業体験のなかで作成する小論文（工学部）、デッサンまたはマインドマップの作成（感性デザイン学部）により、本学や志望学部の受け入れ方針、求める人材像との整合性を総合的かつ多面的に評価・判定します。

●外国人留学生特別選抜試験

日本国籍を有しない人で、本学での教育を通じてより深い専門的知識と技術を修得したいという目標を持ち、人間性豊かな人を対象とします。

工学部においては、

- ①「自然環境に配慮した科学技術」に関心のある人、
- ②部活動やボランティア活動など、幅広い学生生活を送りたいと望む人、
- ③個性が輝き、人と異なる発想力を持っている人、
- ④ふるさとを愛し、地域の発展に貢献したいと考えている人、
- ⑤本学の「工学部」で学びたいという強い意志を持っている人を対象とします。

感性デザイン学部においては、

- ①公共的問題や地域社会への関心を持ち、デザイン活動を楽しめる人、
- ②求められているものが何かを理解できる感性豊かな人、
- ③これまでの常識にとらわれない発想力のある人、
- ④議論に参加し、議論を活性化できるコミュニケーション能力のある人、
- ⑤本学の「感性デザイン学部」で学びたいという強い意志を持っている人

を対象とします。

両学部とも、面接・調査書（最終学校の成績証明書）・本人が記載するエントリーシート、授業体験のなかで作成する小論文（工学部）、デッサンまたはマインドマップの作成（感性デザイン学部）および口頭試問により、本学や志望学部の受け入れ方針、求める人材像との整合性を総合的かつ多面的に評価・判定します。

●帰国生特別選抜試験

日本国籍を有し、外国の学校に在学した人で、本学での教育を通じてより深い専門的知識と技術を修得したいという目標を持ち、人間性豊かな人を対象とします。

工学部においては、

- ①「自然環境に配慮した科学技術」に関心のある人、
- ②部活動やボランティア活動など、幅広い学生生活を送りたいと望む人、
- ③個性が輝き、人と異なる発想力を持っている人、
- ④ふるさとを愛し、地域の発展に貢献したいと考えている人、
- ⑤本学の「工学部」で学びたいという強い意志を持っている人

を対象とします。

感性デザイン学部においては、

- ①公共的問題や地域社会への関心を持ち、デザイン活動を楽しめる人、
- ②求められているものが何かを理解できる感性豊かな人、
- ③これまでの常識にとらわれない発想力のある人、
- ④議論に参加し、議論を活性化できるコミュニケーション能力のある人、
- ⑤本学の「感性デザイン学部」で学びたいという強い意志を持っている人

を対象とします。

両学部とも、面接・調査書（最終学校の成績証明書）・本人が記載するエントリーシート、授業体験のなかで作成する小論文（工学部）、デッサンまたはマインドマップの作成（感性デザイン学部）により、本学や志望学部の受け入れ方針、求める人材像との整合性を総合的かつ多面的に評価・判定します。